

- ・暴雨天時には、過湿防止のため液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
- ・暖房機を利用したポトキトラ水中和剤のダクト内投入を行う場合には、低温条件下では効果が出てくれないので、温度管理に注意する。
- ・植物防疫ニュース(速報No.28)「トマト灰色かび病の発生が増えています!」、 「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果」をホームページに掲載中。

5 なら 白斑葉枯病
 発生量： やや多い
 (1) 発生予想 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率126%)。(土)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に適している。(+)
 (3) 対策 施設内が多湿とならないよう、日中に適度な換気を行う。
 ・発生初期にストロベロフロアアブル、ポリオキシンA/L水溶液等を散布する。

6 きく ハダニ類
 発生量： 多い
 (1) 発生予想 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率357%、株率436%)。(+)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低く、日照時間が長い見込みである。(土)
 (3) 対策 薬剤があまり易い生育初期からの防除を行う。
 ・葉裏をよく観察し、発生が認められたら、下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスタグマイトフロアブル等を散布する。
 (4) 備考 1.園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

7 きく アザミウマ類
 発生量： やや多い
 (1) 発生予想 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率370%、株率100%)。(+)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低く、日照時間が長い見込みである。(土)
 (3) 対策 ・雌草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内外を除草する。
 ・密度が高くなると防除が困難になるため、早期発見に努め、密度が低い時点で薬剤を散布する。
 (4) 備考 ・発生が認められたら、スピノエース顆粒水中和剤、マツチ乳剤〔適用害虫：シロアザミウマ類〕等を散布する。
 ・アザミウマ類はウイルス病(キク萎えそ病、キクえそ病)を媒介する。
 ・「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定」をホームページに掲載中。

8 その他の病害虫
 発生予想 発生予想
 現状 現状
 発生予想 発生予想
 やや少 やや少
 平年並 平年並
 やや少 やや少
 やや少 やや少
 うどんこ病 うどんこ病
 アザミウマ類 アザミウマ類
 乾腐病 乾腐病
 白さび病 白さび病
 発生予想 発生予想
 平年並 平年並
 多 多
 少 少
 やや少 やや少

農薬は適正に管理し、正しく使いましょう!
 同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
 ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を必ず確認し、安全に散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間1月12日から2月11日 1月11日気象庁発表)
 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は平年並の確率50%です。
 低い(少ない) 確率 30%
 高い(多い) 確率 30%
 平年並の確率 30%
 低い(少ない) 確率 40%
 高い(多い) 確率 30%
 平年並の確率 30%

☆ 病害虫情報発表表のお知らせは、「農政部ツイッター (@tochigi_nousei)」でも発信していますので、是非、ご利用ください。
 詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。
 当センター携帯サイト(<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。
 Tel (028)626-3086 Fax (028)626-3012

平成24年度 病害虫発生予報 第10号
 平成25年1月18日
 栃木県農業環境指導センター

〇いちご、トマトの灰色かび病の多発が懸念されます。
〇いちご、きくハダニ類が増加しています。
 予想期間1月下旬～2月下旬
 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病
 発生量： 平年並
 (1) 発生予想 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率179%、株率283%)。(+)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に不適。(一)
 (3) 対策 ・適正な温度管理や換気、かん水等を行う。
 ・発生を予防するため、硫黄剤によるくん煙を行う。
 ・発生初期にハンテスコイフ顆粒水中和剤、ストロベロフロアブル等もよくかかるように散布する。
 (4) 備考 ・発生初期にジャスティミート顆粒水中和剤、カンタスドライフロアブル等を散布する。
 ・植物防疫ニュース(No.26)「イチゴうどんこ病の発生に注意しましょう」をホームページに掲載中。

2 いちご 灰色かび病
 発生量： 多い
 (1) 発生予想 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率241%、株率200%)。(+)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に適している。(+)
 (3) 対策 ・下葉を除き、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
 ・葉病部位(果実、果梗等)は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
 (4) 備考 ・発生初期にジャスティミート顆粒水中和剤、カンタスドライフロアブル等を散布する。
 ・暴雨天時には、過湿防止のため液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
 ・植物防疫ニュース(No.29)「イチゴ灰色かび病の発生に注意しましょう!」、 「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果」をホームページに掲載中。

3 いちご ハダニ類
 発生量： やや多い
 (1) 発生予想 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率148%、株率141%)。(+)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低く、日照時間が長い見込みである。(土)
 (3) 対策 ・必要に応じて葉かきを行い、葉液があまり易い生育初期からの防除を行う。
 ・発生初期に気門封鎖剤等を散布する。
 (4) 備考 ・気門封鎖剤は卵には効果が無いため、必ず複数回、十分量を散布する。
 ・天敵製剤を使用する場合は、放飼前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。
 また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
 ・植物防疫ニュース(No.25)「いちごのハダニ類の増加に注意しましょう!」、 「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

4 トマト 灰色かび病
 発生量： 多い
 (1) 発生予想 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率170%、株率122%)。(+)
 (2) 根 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に適している。(+)
 (3) 対策 ・撤去期は施設を密閉するため、施設内が多湿となりやすい。(+)
 ・施設内が多湿にならないよう換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を防止する。
 ・発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
 ・暖房機を利用したポトキトラ水中和剤のダクト内投入を行う。なお、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。
 ・発生初期にカンタスドライフロアブル、サンヨール等を散布する。

平成24年度 病害虫発生予報 第11号

平成25年2月22日
栃木県農業環境指導センター

○果菜類の灰色かび病の発生に注意しましょう!
○いちごのハダニ類の発生が多くなっています!

予想期間 2月下旬～3月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご とうこんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根拠 現在の発生量は昨年並(平年比:は場率 87%、株率 40%)。(±)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に不適である。(一)
- 適正な温度管理や換気、かん水等を行う。
- 発病果実等は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
- 発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。
- 発生初期にアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル等を葉裏にもよくかかかのように散布する。
- 植物防疫ニュース(No.26)「いちごとうこんこ病の発生に注意してください」をホームページに掲載中。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量は昨年並(平年比:は場率 113%、株率 180%)。(±)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に適している。(十)
- 下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
- 発病部位(果実、果梗等)は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
- 発生初期にアミスター20フロアブル、フルピカフロアブル等を散布する。
- 曇雨天時には、過湿防止のため液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
- 植物防疫ニュース(No.29)「イチゴ灰色かび病の発生に注意しましょう!」、「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果」をホームページに掲載中。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 現在の発生量はやや多い(平年比:は場率 159%、株率 171%)。(十)
- 向こう1か月の日照時間が昨年並の見込みで、施設内の日中の気温が上がり、増殖にやや適している。(±～十)
- (3) 対策 ハダニ類は下葉に多いので、必要に応じて下葉をかきを行う。
- 気門封鎖剤、カネマイトフロアブル等を葉裏にもよくかかかのように丁寧に散布する。
- (4) 備考 気門封鎖剤は卵には効果が無いので、必ず複数回、十分量を散布する。
- 天敵製剤を使用する場合は、放飼前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。
- また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
- 植物防疫ニュース(No.25)「いちごのハダニ類の増加に注意しましょう!」、「園芸作物の発生したアミスター20フロアブルの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効力実証試験」をホームページに掲載中。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：昨年並
- (2) 根拠 現在の発生量はやや少ない(平年比:は場率 48%、花率 35%)。(一)
- 向こう1か月の日照時間が昨年並の見込みで、施設内の日中の気温が上がり、増殖にやや適している。(±～十)
- (3) 対策 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内外の除草を行う。
- 発生初期はカウランター乳剤等、発生が多い場合はディアナスC等を散布する。
- (4) 備考 アザミウマ類は花に寄生するので、花の中をよく観察する。
- カウランター乳剤等のIGR剤は幼虫が多い発生初期に使用する。
- 植物防疫ニュース(速報 No.30)「いちごのアザミウマ類の発生増加に注意

しましょう!」、「園芸作物で発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果」および「同(続報)」をホームページに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量は昨年並(平年比:は場率 157%) (±)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は低い見込みで、発生に適している。(十)
- 施設内が多湿になるため、施設内が多湿となりやすい。(十)
- 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を防止する。
- 発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
- 暖房機を利用したポトキトラ水和剤のダクト内投入を行う。なお、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。
- 発生初期にセイブフロアブル20、フルピカフロアブル等を散布する。
- 曇雨天時には、過湿防止のため液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
- 暖房機を利用したポトキトラ水和剤のダクト内投入を行う場合には、低温条件下では効果が出にくいので、温度管理に注意する。
- 植物防疫ニュース(速報 No.28)「トマト灰色かび病の発生が増えています!」、「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果」をホームページに掲載中。

6 その他の病害虫

いちご	アブラムシ類	発生予想	現況	発生予想	現況	発生予想
トマト	黄化葉巻病	昨年並	昨年並	昨年並	昨年並	昨年並
きゅうり	うどんこ病	昨年並	昨年並	昨年並	昨年並	昨年並
	べと病	昨年並	昨年並	昨年並	昨年並	昨年並
	褐斑病	やや少	やや少	昨年並	昨年並	昨年並

春の病害虫防除対策

- 水稲 イネ綿葉枯病(ヒメトビウモク媒介)
 - 綿葉枯病の多発が懸念される県中南部で罹病性品種(コシヒカリ、なすひかり、べこおほかば、モミロー、リーフスター等)を作付する場合は、媒介虫のヒメトビウモク対策としてアドマイヤー-CR箱粒剤、ダントツ箱粒剤またはこれらを含む混合箱施用剤を使用しましょう。
 - 植物防疫ニュース(速報 No.27)「ヒメトビウモク越冬世代幼虫の綿葉枯病ウイルス保護虫率が高まっています!」をホームページに掲載中。
- 水稲 イネドロオイムシ
 - 前年発生が多く見られたほ場の周辺では、イネドロオイムシ成虫が多く越冬していると考えられます。成虫は5月下旬に本田への侵入を開始し産卵するため、被害が懸念される場合はイネドロオイムシに適用のある箱施用剤を使用しましょう。
- いちご親株床
 - 親株床には病害虫の発生していない株を選別し、定植しましょう。

農薬は適正に管理し、正しく使いましょう!

- ☆ 同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。
- ☆ ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報(予報期間2月16日から3月15日 2月15日気象庁発表)

項目	確率	高い(多い)確率
降水	30%	30%
日照	40%	40%
気温	30%	30%
日照時間	40%	30%

NEWS & INFORMATION

病害虫情報発表のお知らせは、「農政部ツイッター (@tochigi_nousei)」でも発信していますので、是非、ご利用ください。

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.ippn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。
当センター携帯サイト (<http://www.ippn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>) もご利用ください。

Tel(028) 626-3086 Fax(028) 626-3012

平成24年度 病害虫発生予報 第12号

平成25年3月15日
栃木県農業環境指導センター

○いちごの害虫の発生増加に注意しましょう！

予想期間3月下旬～4月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご どうんこ病

- (1) 発生予想 発生量は **平年並** (平年比: ほぼ場率101%)。(±)
- (2) 根拠 現在の発生は平年並は並～高い見込みで、発生にやや適する。(±～+)
- (3) 対策 適正な温度管理や換気、かん水等を行う。
発生を予防するため、硫黄剤によるくん煙を行う。
発生初期にアルビカアフロアブル、ダイマジン等を葉裏にもよくかかかのように散布する。
- (4) 備考 植物防疫ニュース(No.26)「イチゴうどんこ病の発生に注意しましょう」をホームページに掲載中。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量は **やや多い**
- (2) 根拠 現在の発生量は **やや多い** (平年比: ほぼ場率169%、株率163%)。(+)
向こう1か月の気温は並～高い見込みで、発生にやや適する。(±～+)
- (3) 対策 天敵導入は場では、概ね天敵の定着がみられている。(－)
ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。
必要に応じて葉かきを行い、葉液がかりやすい状態で、スターマイトフロアブルや気門封鎖剤等を散布する。
- (4) 備考 気門封鎖剤は抵抗性ハダニ類にも効果があるが、直接葉液がかかかなければ効果が劣り、卵には効果が無い。必ず十分量を複数回散布する。
植物防疫ニュース(No.25)「いちごのハダニ類の増加に注意しましょう」、「園芸作物物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量は **やや多い**
- (2) 根拠 現在の発生量は **平年並** (平年比: ほぼ場率80%、株率57%)。(±)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は並～高い見込みで、発生にやや適する。(±～+)
発生初期はマツチ乳剤[メチチアザミウマ]等のIGR剤を散布する。
多発時には、天敵等の状況に応じてアゼント水和剤[シロイソアザミウマ]、ゲイアナSC等を散布する。
- (4) 備考 アザミウマ類は花に寄生するため、花の中をよく観察する。また、未成熟果の表面に被害がみられた場合には、速やかに防除する。
植物防疫ニュース(速報No.30)「いちごのアザミウマ類の発生増加に注意しましょう」、「園芸作物物で発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果」および「同」(続報)をホームページに掲載中。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量は **やや少ない**
- (2) 根拠 現在の発生量は **やや少ない** (平年比: ほぼ場率106%、株率18%)。(－)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は並～高い見込みで、発生にやや不適である。(±～－)
施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機を稼働し、植物体表面の結露を防止する。
発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
暖房機を利用したボトキカラ－水和剤のダクト内投入を行う。なお、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。
発生初期にカンタックスフロアブル、ポリオキシエンA.L.水溶液を散布する。
曇雨天時には、過湿防止のため液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。
暖房機を利用したボトキカラ－水和剤のダクト内投入を行う場合には、低温条件下では効果が出にくいので、温度管理に注意する。
- (4) 備考

- 植物防疫ニュース(速報No.28)「トマト灰色かび病の発生が増えています!」、「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果」をホームページに掲載中。

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量は **やや少ない**
- (2) 根拠 現在の発生量は **少ない** (平年比: ほぼ場率16%)。(－)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は並～高い見込みで、発生にやや適する。(±～+)
発生源となる施設内外の雑草を除去する。
生育に応じて葉かきを行い、幼虫を除去する。葉はビニル袋等で密封し、枯死させたうえで処分する。
施設内に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類が捕殺されたらハチハチ乳剤、アネキコナジラミ等を散布する。気門封鎖剤を併用する場合は葉害に注意する。
タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介する。トマト黄化葉巻病罹病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り処分する。
作付終了時に保毒虫の周囲への分散を防ぐために、必ず蒸し込み処理を行う。
! 果菜類に発生したタバココナジラミの薬剤感受性検定結果」をホームページに掲載中。
- (4) 備考

6 さく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量は **やや多い**
- (2) 根拠 現在の発生量は **平年並** (平年比: ほぼ場率129%、株率68%)。(±)
- (3) 対策 向こう1か月の気温は並～高い見込みで、発生にやや適する。(±～+)
薬剤がかかり易い生育初期からの防除を行う。
葉裏をよく観察し、発生が認められたら、下葉や葉裏にもよくかかかのように丁寧に気門封鎖剤やカネマイトフロアブル等を散布する。
- (4) 備考 「園芸作物物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

7 その他の病害虫

- | いちご | 発生予想 | 発生予想 | 発生予想 | 発生予想 |
|--------|------|------|--------|------|
| 灰色かび病 | 平年並 | 平年並 | うどんこ病 | やや多 |
| アブラムシ類 | 多 | 多 | アザミウマ類 | やや多 |
| 葉かび病 | やや多 | やや多 | ネダニ類 | やや多 |
| きゅうり | 平年並 | 平年並 | アザミウマ類 | 多 |

春の病害虫防除対策

- なし黒星病
・昨年は6月に発生が多い状態が継続したため、注意が必要です。
・一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期は最重要防除時期です。果そう基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI剤を散布しましょう。

- ☆ 同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。
☆ ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。

農薬は適正に管理し、正しく使いましょう!

- 1か月気象予報(予報期間3月9日から4月8日気象庁発表)
天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

	低い(少ない)	確率	平年並の確率	高い(多い)	確率
○気温	20%	30%	40%	40%	40%
○降水量	30%	30%	40%	30%	30%
○日照時間	30%	30%	40%	30%	30%

NEWS & INFORMATION

- ☆ 平成25年度農作物等病害虫雑草防除の手引は4月上旬に発行されます。お求めの方は、栃木県農業者懇談会(028-647-2622)にお問い合わせ下さい。
- 詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。
当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成25年度 病害虫発生予報 第1号

平成25年4月19日
栃木県農業環境指導センター

○アザミウマ類の発生が増加しているので、早めに防除しましょう！

予想期間 4月下旬～5月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご どんご病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率251%、株率157%)。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで、発生にやや不適である。(土～)
- (3) 対策 適正な温度管理や換気、かん水等を行う。
 - ・発病果は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・発生初期にパンチョ T F 顆粒水和剤、サンリット水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備考 平成24年度植物防疫ニュース(速報No.26)「イチゴゴうどんご病の発生に注意してください」を当センターHPに掲載中。

2 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率112%、株率222%)。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで、発生にやや適している。(土～)
- (3) 対策 下葉を取り除いて風通しを良くするとともに、かん水は必要最低限に留める。
 - ・発病部位(果実、果梗等)は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
 - ・発生初期にジャヤストミート顆粒水和剤、フアンタジスタ顆粒水和剤等を散布する。
- (4) 備考 平成24年度植物防疫ニュース(速報No.29)「イチゴ灰色かび病の発生に注意しましょう」を当センターHPに掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量は平年並。(土)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで、発生にやや不適である。(土～)
- (3) 対策 今後、施設が開放され、施設外からの飛び込みが増加する。(+)
 - ・発生が見られた場合は、カウランター乳剤、ブイアアノSC等を散布する。
- (4) 備考 植物防疫ニュース(速報No.30)「いちごのアザミウマ類の発生増加に注意しましょう」、「園芸作物に発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果」及び「同(続報)」を当センターHPに掲載中。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量は平年並。(土)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで発生にやや適している。(土～)
- (3) 対策 施設内が多湿にならないよう、換気やかん水に注意する。
 - ・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は感染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
- (4) 備考 発生初期にセイビアーフローアブル20、ベルクートフロアブル等を散布する。「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果」を当センターHPに掲載中。

5 きゅうり アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率290%、株率270%)。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで、発生にやや不適である。(土～)

- (3) 対策 ・雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内外の除草を行う。
- ・早期発見に努め、密度の低い時点で、カスケード乳剤[シタキイワサシ]、アーム乳剤[シタキイワサシ]等を散布する。
- (4) 備考 ・カスケード乳剤はIGR剤なので防除対象は幼虫のみである。
- ・「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定」を当センターHPに掲載中。

6 大きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率166%、株率127%)。(+)
 - ・向こう1か月の平均気温は平年並～低く、発生にやや不適である。(土～)
- (3) 対策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。
- ・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に毎門封鎖剤やコロロイト水和剤[シタキイワサシ]等を散布する。
- (4) 備考 ・「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」を当センターHPに掲載中。

7 その他病害虫

トマト	葉かび病	黄化葉巻病	アブラムシ類	発生予想	発生予想	発生予想	発生予想
多	やや多	平年並	平年並	やや多	やや多	やや多	やや多
きゆうり	べと病	うとんこ病	白さび病	きゆうり	きゆうり	きゆうり	きゆうり
きく	きく	きく	きく	きく	きく	きく	きく

春の病害虫防除対策

- 麦類の赤かび病は適期に防除を行いますよう！
 - ・麦類の赤かび病菌は人間道に有害なかび毒素(DON, NIV)を産出するため、赤かび粒の混入した麦は販売できません。このため予防的な防除を行い、発生防止に努めることが重要です。
 - ・本年は冬季の低温により麦類の生育が大幅に遅れていますが、3月の高温で遅れをとり戻すつあたりです。今後の出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いますよう。
 - ・平成24年度植物防疫ニュース(速報No.32)「麦類の赤かび病は適期に防除を行いますよう」を当センターHPに掲載中。

○いちごの親株床の管理は適切に行いましょう！

- ・本年から親株床へのうどんこ病やハダニ類の持ち込みを防止するため、管理作業は別々に行うようにしましょう。

○ナシ黒星病の重点防除を行いますよう！

- ・昨年は、6月以降にナシ黒星病の発生が多い状態が継続したため、本年は注意が必要です。
- ・一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期前後は最重要防除時期です。果そう基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治癒効果のあるDMI剤を散布しましょう。
- ・平成25年度植物防疫ニュース(速報No.2)「適期にナシ黒星病の重点防除を実施しましょう」を当センターHPに掲載中。

○農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

- ☆ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間 4月13日から5月12日 4月12日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は低い確率60%です。

項目	低い(少ない)確率	高い(多い)確率
気温	40%	40%
降水量	40%	40%
日照時間	30%	30%

NEWS & INFORMATION

☆「平成25年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」が発行されています。お求めの方は、栃木県農業者懇談会(028-647-2622)にお問い合わせください。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。
Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012

平成25年度 病害虫発生予報 第3号

平成25年6月21日
栃木県農業環境指導センター

○ヒメトビウカ第1世代幼虫のイネ絹葉枯ウイルス保毒率が高まっています！
○気温が高く推移していますので害虫の発生増加に注意しましょう！

予想期間6月下旬～7月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

- 1 水稲 いもち病 (葉いもち)
- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
(2) 根拠 ・BLASTAM(葉いもち感染好適日条件)では、感染好適日が連続していない(17日現在)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、降水量、日照時間も平年並の見込みで、発生にやや不適である。(±～)
(3) 対策 ・発生が見られた場合には、早急にカスラブサイドゾル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。(平年初発時期は6月第5半旬頃)
(4) 備考 ・感染好適条件は平均気温20℃前後で、弱い連続降雨がある時。
・当センターホームページにBLASTAMの情報を掲載中。

- 2 水稲 絹葉枯病 (ヒメトビウカ媒介)
- (1) 発生予想 発生量：多い (発生地域：県南地域)
(2) 根拠 ・県南地域では、昨年の黄熟期に要防除水準(発生株率10%)を超える地点が複数見られた。(±)
・ウンカ類幼虫の越冬前密度調査で、県平均60.6頭/10㎡(平年比312%)と多かった。(±)
(3) 対策 ・第1世代幼虫の保毒率が過去2年間に比較して高くなった。(±)
・県南地域の罹病性品種(コシヒカリ等)に対して、6月下旬～7月上旬に本ウイルスの媒介虫ヒメトビウカの本田防除を行う。なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は、同一系統薬剤の運用を避ける。
(4) 備考 ・平成25年6月17日発表「病害虫発生予報注意報第1号」及び防除対策のポイントNo.15(イネ絹葉枯病に注意しましょう)を当センターホームページに掲載中。

- 3 いちご(親株) うどんこ病
- (1) 発生予想 発生量：平年並
(2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比:ほ場率130%、株率83%)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、降水量、日照時間も平年並の見込みで、発生にやや不適である。(±～)
(3) 対策 ・本ほへの菌の持ち込みを防ぐため、採苗前に防除を徹底する。
・生育に応じて葉かきを実施し、株の風通しを良くする。
・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
・本ほでの多発を防ぐため、ベルグートフロアブル、アミスター20フロアブル等で適切に防除する。
(4) 備考 ・高温時には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存している。

- 4 いちご(親株) ハダニ類
- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比:ほ場率136%、株率131%)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(±)
・ハウス内外の雑草はハダニ類の増殖場所になるため、除草を徹底する。
(3) 対策 ・本ほへのハダニ類の持ち込みを防ぐため、採苗前に防除を徹底する。
・気門封鎖系薬剤を定期的に散布する。
・多発時には、気門封鎖系薬剤と殺菌効果のある薬剤を組み合わせて防除する。

- (4) 備考
- ・薬剤散布に当たっては葉裏にもよくかかるように丁寧に行う。
 - ・薬剤の選定にあたっては、当センターホームページ掲載中の「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」等を参照のこと。

- 5 なし 黒星病
- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比:ほ場率93%、葉率250%)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、降水量、日照時間も平年並の見込みで、発生にやや不適である。(±～)
(3) 対策 ・多発した葉や果実は伝染源となるため、摘み取ってほ場外で処分する。
・発生ほ場では、ストロビロアフロアブル、ナリアWDG等を散布する。
・凍霜害等を受けたほ場においても、次作に向け防除を実施する。
(4) 備考 ・平成25年度植物防疫ニュース(速報No.7)「なしの黒星病発生増加に注意が必要です!」を当センターホームページに掲載中。

6 その他の病害虫

いちご	炭疽病	アブラムシ類	アザミウマ類	発生予想	現況	発生予想
トマト	灰色かび病	アブラムシ類	アザミウマ類	なす	アザミウマ類	発生予想
さゆりり	べと病	アザミウマ類	アザミウマ類	なす	アザミウマ類	発生予想

○ほ場の雑草対策は害虫防除の基本です！
水田では、周辺の雑草だけでなく本田内の雑草(ノビエ、イヌホタルイ等)も斑点米カメムシ類を誘引し、発生源となります。また、施設・露地に開わらずあらゆる野菜類や花き類のほ場でも、ほ場内外の雑草は、ハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類の温床となります。薬剤散布時には、雑草が害虫の避難場所の役目を果たし、作物上への再侵入だけでなく、薬剤抵抗性発達の一因にもなります。適切な雑草対策で害虫類の生息しにくい環境をつくりましょう。

- 農薬を適正に使いましょう(6～8月は農薬散布防止運動期間です！)
- ☆ 農薬を使用する場合は、必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。
 - ☆ 同一系統の薬剤の運用を避け、必ず異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間6月15日から7月14日 6月14日気象庁発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並の確率40%、平均気温は高い確率50%です。週別の気温は1週目は高い確率80%、2週目は平年並の確率40%、3～4週目は高い確率40%です。

項目	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	20%	30%	50%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

☆ 県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬散布防止運動期間」とし、農薬の適正使用等について啓発活動を行っています。
☆ 「平成25年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」が発行されています。お求めの方は、栃木県農業者懇談会(028-647-2622)にお問い合わせ願います。

☆ 詳しくは農業環境指導センターまでお問い合わせください。
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012 HPアドレス <http://www.jpnn.ac.jp/tochug/index.html>

平成25年度 病害虫発生予報 第4号

平成25年7月19日
栃木県農業環境指導センター

○水稲の斑点カメムシ類の多発が懸念されます！
○イチゴ炭疽病の発生に注意しましょう！

予想期間 7月下旬～8月下旬
予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

- 1 水稲 斑点カメムシ類
発生量：多い
(1) 発生予想
(2) 根拠
(3) 対策
(4) 備考
- 7月中旬のイネ科雑草地すくい取り調査で、斑点カメムシ類の発生が多い(平年比：成虫数223%)。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は平年高い見込みで、発生に適している。(+)
 - 穂ぞろい期に斑点カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期(出穂期7～10日後)までにMR、ジョーカーEW、スタークル(スタークルメイト)液剤10等を散布する。
 - 防除後も斑点カメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行う。
 - 病害虫発生予報注意報第2号(水稲・斑点カメムシ類)をホームページに掲載中。

- 2 いちご 炭疽病
発生量：やや多い
(1) 発生予想
(2) 根拠
(3) 対策
(4) 備考
- 7月の巡回調査で観株での発生が散見され、増加傾向にある。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
 - 水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。
 - 風通しを良くするとともに、茎葉のぬれ時間が長くなりなならないよう、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
 - 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にベルコート水和剤、アントラコール顆粒水和剤等をローテーション散布する。
 - 発病株、発病した葉及びランナーは見つけ次第取り除き、ほ場外で処分し、速やかにサンリット水和剤やゲッター水和剤等を散布する。
 - 植物防疫センター(連絡No.11)「県内各地でイチゴ炭疽病の発生が見られます。育苗期の発生に注意しましょう。」をホームページに掲載中。

- 3 いちご ハダニ類
発生量：やや多い
(1) 発生予想
(2) 根拠
(3) 対策
(4) 備考
- 現在の発生は平年並(平年比：ほ場率111%)。(±)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
 - ハウス内の雑草はハダニ類の増殖場所になるため、除草を徹底する。
 - 苗による本ばへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を適正に行う。
 - 発生を認めたら、気門封鎖系薬剤を約5日間隔で複数回、葉裏によくかかるとともに散布する。
 - 多発時には、気門封鎖系薬剤と殺卵効果のある薬剤を組み合わせて防除する。
 - 薬剤の選定にあたっては、当センターホームページ掲載中の「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」等を参照のこと。

- 4 トマト コナジラミ類
発生量：やや多い
(1) 発生予想
(2) 根拠
(3) 対策
(4) 備考
- 現在の発生は平年並(平年比：ほ場率114%、株率63%)。(±)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
 - ほ場周辺の除草を徹底する。
 - 施設の開口部に0.4mm以下の防虫ネットを張り侵入を防ぐ。光反射シートや紫外線カットフィルムも効果がある。
 - 今後定植する作型では、育苗期及び定植時にベスガード粒剤等を施用する。
 - タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので注意する。

5 きく アザミウマ類

- 発生量：多い
(1) 発生予想
(2) 根拠
(3) 対策
(4) 備考
- 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率634%、株率227%)。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
 - 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。
 - 親株からの持ち込みに注意する。
 - 施設開口部に防虫ネットを張ることにより、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
 - 発生初期から、マツチ薬剤【シロアザミウマ】やカウランナー薬剤等を散布する。
 - アザミウマ類はウイルス病(キク萎え病、キクえそ病等)を媒介するので注意する。
 - 当センターHPに「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定」を掲載中。

6 野菜類・花き類 タバコカガリ類

- 発生量：多い
(1) 発生予想
(2) 根拠
(3) 対策
(4) 備考
- 7月第3半旬までのフェネロラップでの誘殺数が多い。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
 - 発生初期に、浸透移行性の高い薬剤(プレバソンプフロアブル5<適用作物:トマト、なす、きく等>【材カガリ】、アニキ乳剤<適用作物:いちご、トマト、なす、きく等>【材カガリ】等)で防除する。
 - 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
 - 植物組織内部に侵入するため、被害果実はほ場外に持ち出して適切に処分する。
 - 果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察する。

7 その他の病害虫

- | 水稲 | いちご | ねじり | な | 現況 | 発生予想 | ぶどう | りんご | きく | 野菜類 | ハダニ類 | ハスモンヨトウ | 現況 | 発生予想 |
|--------|--------|--------|--------|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|---------|-----|------|
| 葉いもち | 葉いもち | 葉いもち | 葉いもち | 少 | 多 | 少 | 多 | 少 | 多 | 少 | 多 | 少 | 多 |
| 縮葉枯病 | 縮葉枯病 | 縮葉枯病 | 縮葉枯病 | 少 | 多 | 少 | 多 | 少 | 多 | 少 | 多 | 少 | 多 |
| うどんこ病 | うどんこ病 | うどんこ病 | うどんこ病 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや多 | 平年並 | やや多 | 平年並 | やや多 |
| アザミウマ類 | アザミウマ類 | アザミウマ類 | アザミウマ類 | 平年並 | やや多 | 平年並 | やや多 | 平年並 | やや多 | 平年並 | やや多 | 平年並 | やや多 |
| 黒星病 | 黒星病 | 黒星病 | 黒星病 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや少 |

○水稲の縮葉枯病の発生に注意しましょう

・本年の縮葉枯病は、前期発病(ゆうれい症状)の発生が早く、これまで7月上旬に発生ほ場がほとんど見られなかった県北中部でも広く確認されています。また県南部では発生株率も多い状況です。今後、出穂期以降は、後期発病(出すくみ等)も増えそうです。発生状況をよく確認し、要防除水準(黄熟期発生株率10%)を超えるほ場が見られる地域では、次年産に向けて対策を検討しましょう。

○農薬を適正に使いましょう(6～8月は農薬危害防止運動期間です！)

- 農薬を使用する場合は、必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。
- 同一系統の薬剤の運用を避け、必ず異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間7月13日から8月12日 7月12日気象庁発表)

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。週別の気温は、1週目は高い確率60%です。2週目は高い確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

	低い(少ない) 確率	平年並の確率	高い(多い) 確率
○気温	10%	30%	60%
○降水量	40%	40%	20%
○日照時間	20%	40%	40%

NEWS & INFORMATION

☆「平成25年度 園芸作物等病害虫雑草防除の手引き」のお求めは、栃木県農業者懇談会にお問い合わせください。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.jp/tochigi/index.html>)までお問い合わせください。
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成25年度 病害虫発生予報 第5号

平成25年8月23日
栃木県農業環境指導センター

○大豆・野菜類・花き類のハスモンヨトウ、オオタバコガの増加が懸念されます

予想期間8月下旬～9月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 大豆 吸害性カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
(2) 根拠 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率189%)。(+)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
開花期の15日後から、トレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10日～14日間隔で散布する。なお、子実肥大中期(9月上中旬)の吸汁害は、減収および品質低下が大きいため9月も防除を行う。

2 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
(2) 根拠 フェロモントラップでの成虫誘殺数はやや多い。(+)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
(4) 備考 ハスモンヨトウの幼虫は齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。
当センターHPに「ハスモンヨトウ3齢幼虫の薬剤感受性検定」を掲載中(適用作物注意)。

3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
(2) 根拠 現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率80%)。(一)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
発病株は見つけ次第取り除き、見場外で処分する。また、潜在感染株を本ばに持ち込まないために、発病株周囲の株は使用しない。
水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りが少ないようなかん水を行う。また、茎葉のぬれ時間が長くなり、かん水は晴天日の午前に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
(4) 備考 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にべルクー ト水和剤(育苗期(定植前))等を散布する。
発病株が見られたら、速やかにサンリット水和剤等を散布する。
当センターHPに「植物防疫ニュース(速報No.11)「県内各地でイチゴ炭疽病の発生が見られます。育苗期の発生に注意しましょう」」を掲載中。

4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率104%、発生株率66%)。(±)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
苗による本ばへの持ち込みを防ぐため、定植前に育苗床での防除を徹底する。
(4) 備考 発生が見られたら葉裏のハダニ類を洗い流すように気門封鎖剤を約5日間隔で複数回散布する。
葉の痛みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。
当センターHPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」を掲載中。

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い

- (2) 根拠 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率116%、発生株率68%)。(±)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
ほ場内外の野生生えトマトや雑草は発生源となるため除去する。
防虫ネットを伸展し施設への侵入を防止する。
育苗期から定植時にベストガード粒剤などを施用するとともに、定期的に気門封鎖剤やアニキ乳剤などを散布する。
(4) 備考 当センターHPに「果菜類に発生したタバココナジラミの薬剤感受性検定」を掲載中。

6 なす アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
(2) 根拠 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率154%、発生株率145%)。(+)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
発生が多い場合には、プレオフロアブル(ミナミキイロアザミウマ)、アザリメック乳剤などをローテーションも散布する。
(4) 備考 当センターHPに「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定」を掲載中。

7 野菜類・花き類 オオタバコガ

- (1) 発生予想 発生量：多い
(2) 根拠 8月第3半期までのフェロモントラップへの誘殺数が多い。(+)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難となるため、発生初期に防除する。
(4) 備考 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
被害部位はほ場外に持ち出して適切に処分する。
リポフロアブル)を使用して被害を防止する。
果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察し、虫糞や食入孔を確認する。

8 その他の病害虫

水稲	穂いもち	穂葉枯病	いちご	うどんこ病	現況	発生予想	発生予想	発生予想
					一多	やや少	なす	やや多
					平年並	やや少	きく	やや多
							ハダニ類	多
							ハダニ類	多
							アザミウマ類	多

○水稲の結葉枯病の発生に注意しましょう
発生地が県全域に拡大しています。ほ場での後期発病(出さくみ)の発生状況を確認し、要防除水準(黄熟期発生株率10%)を超えるほ場が見られる地域では、次作の対策を検討しましょう。
○いちご本ばへの病害虫持ち込みに注意しましょう
病害虫を本ばへ持ち込まないように十分に注意し、健全株を定植しましょう。

1か月気象予報(予報期間8月17日から9月16日 8月16日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わるでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
 ○気温 低い(少ない) 確率 10% 平年並の確率 高い(多い) 確率 60%
 ○降水量 30% 40% 30%
 ○日照時間 30% 40% 30%

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) までお問い合わせください。
Tel(028)626-3086Fax(028)626-3012

平成25年度 病害虫発生予報 第6号

平成25年9月20日
栃木県農業環境指導センター

〇 **いちごのうどんこ病、ハダニ類が増加しています！**
 〇 **野菜類・花き類のオオタバコガの多発生が継続しています！**

予想期間9月下旬～10月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 成植病

- (1) 発生予想
(2) 根 拠
(3) 対 策
- 発生量：やや多い
 - 現在の発生量は平年並（平年比：ほ場率113%）。(±)
 - 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多い見込みで、発生に適している。(+)
 - 被害株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分する。
 - 茎葉のぬれ時間が長くないよう、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。
 - 発生のおそれがある場合には、セイビアーフロアブル20等を散布する
 - 被害株が見られたら、速やかにサンリット水和剤等を散布する。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想
(2) 根 拠
(3) 対 策
- 発生量：やや多い
 - 現在の発生量は多い（平年比：ほ場率205%、発生株率200%）。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に不適である。(一)
 - 軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
 - 現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、保溫開始前からフルピカフロアブルやベルクートフロアブル等を散布する。
 - 発生が見られたらアミスター20フロアブル等を散布する。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想
(2) 根 拠
(3) 対 策
(4) 備 考
- 発生量：多い
 - 現在の発生量はやや多い（平年比：ほ場率142%、発生株率204%）。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)
 - ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - 化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーションを行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
 - 発生が見られたら葉裏のハダニ類を洗い流すように気門封鎖剤を約5日間隔で複数回散布する。
 - 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
 - 葉の痛みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。
 - 当センターHPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」を掲載中。

4 野菜類・花き類

- (1) 発生予想
(2) 根 拠
(3) 対 策
(4) 備 考
- 発生量：やや多い
 - 9月第3半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。(+)
 - 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多い見込みで、増殖にやや不適がある。(±～一)
 - 定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生薬とともに捕み取り処分する。
 - ハスモンヨトウの幼虫は齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。
 - 当センターHPに「ハスモンヨトウ3齢幼虫の薬剤感受性検定」を掲載中(適用作物注意)。

5 野菜類・花き類

- オオタバコガ
発生量：多い
(1) 発生予想
(2) 根 拠
(3) 対 策
(4) 備 考
- 9月第3半旬までのフェロモントラップへの誘殺数は多い。(十)
 - 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は多い見込みで、増殖にやや不適がある。(±～一)
 - 植物組織内部に食入すると薬剤防除が困難となるため、発生初期に防除する。
 - 浸透移行性の高い薬剤の使用も効果的である。
 - 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
 - 被害部位はほ場外に持ち出して適切に処分する。
 - 果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生しやすい部位をこまめに観察し、虫糞や食入孔を確認する。
 - 当センターHPに「植物防除ニュース」(速報No.13)「オオタバコガの誘殺数が増加しています！」を掲載中。

6 その他の病害虫

いちご	アブラムシ類	現 況	発生予想	現 況	発生予想
きゅうり	うどんこ病	平年並	平年並	平年並	やや多
なす	アザミウマ類	やや少	多	アブラムシ類	多
	ハダニ類	多	多	ハダニ類	多
				アザミウマ類	多

秋の病害虫防除対策

- 〇 **トマト黄化葉巻病 (TYLCV)**
 TYLCVはタバコナジラミによって媒介され、県中部のトマトハウス周辺で実施中の調査において、平成25年産トマトの作付け終了時から継続して保毒虫が確認されています。コナジラミ対策をしっかりと実施しましょう。
 ※植防疫ニュース(速報No.18)「ハウス周辺環境の整備とタバコナジラミ防除を徹底し、トマト黄化葉巻病を防止しましょう！」参照。
 〇 **いちごのアザミウマ類**
 頂花序の開花が10月上旬以前から見られる施設では、秋からアザミウマ類が発生しやすく、翌年の発生も早くなる傾向にあるため、注意が必要です。
 ※平成25年度「いちご病害虫情報第1.2号(5月)いちご促成栽培で発生するアザミウマ類について」参照。

〇 **大豆の吸害性カメムシ類**

- 大豆の調査において、吸害性カメムシ類の発生は揚率が高かったことから、今後、子実肥大後期の加害による減収及び品質低下が懸念されます。子実肥大後期にあたる9月下旬は重要な防除時期となりますので、重点的に防除を実施しましょう。

1か月気象予報(予報期間9月14日から10月13日 9月13日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

項目	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
〇 気温	20%	30%	50%
〇 降水量	20%	30%	50%
〇 日照時間	40%	40%	20%

NEWS & INFORMATION

☆ 栃木県農業管理指導士(養成研修(11月18日、19日)・更新研修(11月18日)が開催されます。申込期間が10月1日～31日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなく申込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全部型農業担当までお問い合わせください。
 Tel(028)623-2286

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)までお問い合わせください。
 Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成25年度 病害虫発生予報 第8号

平成25年11月21日
栃木県農業環境指導センター

○トマト灰色かび病、イチゴうどんこ病は予防と初期防除が重要です！
○いちごのハダニ類増加に注意しましょう！

予想期間11月下旬～12月下旬
予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

- 1 いちご うどんこ病
- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
 - (2) 根 拠 現在の発生は平年並(平年比：ほ場率78.9%)、(±)
 - (3) 対 策 ・向こう1か月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや適している。(±～+)
 - ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、予防を主体にベルクートフロアブルやフルピロアブルを散布する。
 - ・保温開始後は、硫黄粒剤でくん煙する。
 - ・発生が見られたらアミスター20フロアブル、パンチョTF顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかかかのように散布する。

- 2 いちご ハダニ類
- (1) 発生予想 発生量：**多い**
 - (2) 根 拠 現在の発生は多い(平年比：ほ場率186.0%、株率171.8%)、(+)。
 - (3) 対 策 ・向こう1か月の気温は平年並～高く、発生にやや適している。(+)。
 - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。
 - ・必要に応じて葉かきを行い、葉液がかりやすい状態を気門封鎖剤を散布する。
 - (4) 備 考 ・気門封鎖剤は卵には効果がないため、必ず複数回、十分量を散布する。
 - ・天敵製剤を使用する場合は、放飼前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。
 - また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
 - ・「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」、植物防疫ニュース(速報No.22)「いちごのハダニ類が急増しています！」をホームページに掲載中。

- 3 いちご アザミウマ類
- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根 拠 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率89.4%)、(±)
 - (3) 対 策 ・向こう1か月の気温は平年並～高く、発生にやや適している。(+)。
 - ・野外からの飛来が減り、ハウス内での増殖が主体となるので、花をよく観察し、発生が見られたらカウンター乳剤、カスケード乳剤【適用害虫：*シロカバアザミウマ*】等のIGR剤を1～2週間隔で複数回散布する。
 - (4) 備 考 ・IGR剤(カウンター乳剤やカスケード乳剤等)は幼虫にのみ有効である。
 - ・植物防疫ニュース(速報No.21)「いちごのアザミウマ類による秋期被害に注意しましょう！」をホームページに掲載中。

- 4 トマト 灰色かび病
- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根 拠 現在の発生量は平年並、(±)
 - (3) 対 策 ・向こう1か月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや適している。(±～+)
 - ・今後、施設内が多湿となりやすく、発生に適している。(+)。
 - ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
 - ・咲き終わった花弁や発病果、発病葉は感染源となるので早急に取り除き、施設外で処分する。
 - (4) 備 考 ・防除は予防を主体にベルクートフロアブル、セイビアフロアブル20等を葉裏にもよくかかかかのように散布する。
 - ・微生物防除資材(ポトキナー水和剤等)は発病前～発病初期に利用する。ま

た、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
・植物防疫ニュース(速報No.25)「トマト灰色かび病対策は予防と初期防除が重要です！」をホームページに掲載中。

- 5 なら 白斑葉枯病
- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
 - (2) 根 拠 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率154.4%)、(±)
 - (3) 対 策 ・向こう1か月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多い見込みで、発生にやや適している。(±～+)
 - ・施設内が低温多湿とならないよう、日中に適度な換気を行う。
 - ・捨て刈りした葉は感染源になるので、施設外へ持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。
 - ・発生初期にストロピーフロアブル、ポリオキシシアンL水溶剤等を散布する。

- 6 きく ハダニ類
- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根 拠 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率76.9%)、(±)
 - (3) 対 策 ・向こう1か月の気温は平年並～高く、発生にやや適している。(+)。
 - ・薬剤がかかり易い生育初期からの防除を行う。
 - ・葉裏をよく観察し、下葉や葉裏にもよくかかかかのように丁寧に気門封鎖剤やアグリメック(花き類、観葉植物)等を散布する。
 - (4) 備 考 ・「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

7 その他の病害虫

いちご	灰色かび病 アブラムシ類	発生予想 平年並	現況 やや多	発生予想 平年並	現況 やや多
トマト	葉かび病 コナジラミ類	発生予想 やや多	現況 やや多	発生予想 やや多	現況 やや多

- 秋冬期の病害虫防除対策
- イネ絹葉枯病、イネ黄萎病
・罹病した再生稲は次年度の伝染源になるので、早めに耕起しましょう。
※植物防疫ニュース(速報No.24)「再生稲の絹葉枯病発生は場所は、速やかに丁寧に丁寧に耕起しましょう！」参照。
 - トマト黄化葉巻病(TYLCV)：タバココナジラミ媒介)
・罹病株は伝染源となるので見つけしだい抜き取る。抜き取った株は放置せず、速やかにビニル袋などで密閉し、枯死させてから処分する。また、野外からのコナジラミ類の侵入が途切れる時期なので、ハウス内に越冬害虫を残さないための防除を行う。
 - なし黒星病(秋期防除)
・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬剤がかかるとともに丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉は真めて適切に処分する。防除の際には周辺へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意する。
 - 農薬は適正に管理し、正しく使いましょ！
☆ミツバチやマルハルバチに対する安全日数を自注に薬剤を選択しましょう。
☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間11月16日から12月15日 11月15日気象庁発表)

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率とも4.0%です。降水量は、平年並または多い確率とも4.0%です。週別の気温は、1週目は平年並の確率5.0%です。2週目は高い確率が5.0%です。	平年並の確率	高い(多い)確率
低い(少ない)確率	4.0%	4.0%
2.0%	4.0%	4.0%
3.0%	4.0%	3.0%

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jpnpa.go.jp/techigi/index.html>)までお問い合わせください。
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成25年度 病害虫発生予報 第9号

平成25年12月13日
栃木県農業環境指導センター

〇 いちごのハダニ類・トマトの葉かび病の増加に注意しましょう！

予想期間 12月下旬～1月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご どうどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
(2) 根拠 現在の発生量は平年並 (平年比：ほ場率94.8%)。(±)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生に不適である。(－)
適正な温度管理や換気、こまめなかん水等を実施する。
発生を予防するため、硫黄剤によるくん煙を行う。
発生が見られたら、ガツテン乳剤、ダイマジン等を葉裏にも良くかかるとともに散布する。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 現在の発生量はやや多い (平年比：ほ場率180.0%、発生株率199.0%)。(+)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生にやや不適である。(±～)
ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。
必要に応じて葉かきを行い、薬剤がかりやすい状態で気門封鎖剤等を散布する。
(4) 備考 気門封鎖剤は卵には効果が無いため、複数回、十分量を散布する。
天敵製剤を使用する場合は、放向前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。
また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。
当センターHPPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、
「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」、
「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」を掲載中。

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
(2) 根拠 現在の発生量はやや少ない (平年比：ほ場率66.2%)。(－)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生に適用している。(+)
施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
咲き終わった花弁や発病果、発病葉は感染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
(4) 備考 防除は予防を主体にフルピカフロアブル、アフエツトフロアブル等を葉裏にも良くかかるとともに散布する。
微生物防除資材(ボトキラー水和剤等)は発病前～発病初期に利用する。また、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
当センターHPPに「果菜類灰色かび病の薬剤感受性検定①、②」、植物防除マニュアル(速報No.25)「トマト灰色かび病対策は予防と初期防除が重要です！」を掲載中。

4 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
(2) 根拠 現在の発生量は多い。(+)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生に適用している。(+)
施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。

- 肥料切れ等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
- 防除は予防を主体にベルグートフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤等を葉裏にも良くかかるとともに散布する。

5 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
(2) 根拠 現在の発生量は平年並。(±)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生に適用している。(+)
施設内が多湿にならないよう、日中に適度な換気を行う。
発生初期にセイビアーフロアブル20、アミスター20フロアブル等を散布する。

6 さく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並
(2) 根拠 現在の発生量は平年並。(±)
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生にやや不適である。(±～)
薬剤がかり易い生育初期から防除を行う。
葉裏をよく観察し、下葉や葉裏にも良くかかるとともに丁寧に気門封鎖剤やマイトローネフロアブル[マイナゴ]等を散布する。
(4) 備考 当センターHPPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、
「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」を掲載中。

7 その他の病害虫

- | いちご | 灰色かび病 | アブラムシ類 | すすかび病 | コナジラミ類 | 発生予想 | 現況 | 発生予想 | 現況 | 発生予想 |
|-----|-------|--------|-------|--------|------|-----|------|-----|------|
| い | 少 | 平年並 | やや多 | やや少 | やや多 | 平年並 | やや少 | 平年並 | やや多 |
| ち | 平年並 | 平年並 | やや多 | やや少 | やや多 | やや少 | 平年並 | やや少 | 平年並 |
| ご | やや多 | やや少 | やや多 | やや少 | やや多 | やや少 | やや多 | やや少 | やや多 |
- トマト 発生予想 平年並
現況 平年並

イネ綿葉枯病の防除対策

- 平成25年11月下旬から12月上旬に調査したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ綿葉枯ウイルス感染率が過去10年で最も高く、また、ワシカ類幼虫の生息密度も平年の約1.5倍と高くなりました。地域別では県中南部で要防除水準(越冬世代幼虫の感染率10%)を超える地点が見られたため、今後同地域では綿葉枯病の多発が懸念されます。
- 本県の対策としては抵抗性品種(とちぎの星、あさひの夢)の作付をするほか、ウイルスの媒介虫であるヒメトビウンカの防除が必要です。要防除水準を超える地域で罹病性品種(コシヒカリ、なすひかり)を作付する場合には、アドマイヤーCR箱粒剤、ダントツ箱粒剤、またはこれらを含む混合箱施用剤を使用しましょう。なお、県内でプリンス粒剤に対する感受性低下が確認されているため、罹病性品種に使用しない下さい。
- ※当センターHPPに植物防疫ニュース(速報No.24)「再生稲の綿葉枯病発生は懸念は、速やかに丁寧に耕起しましょう！」を掲載中。

〇 農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

- ☆ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間12月7日から1月6日 12月6日気象庁発表)

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、低い確率50%です。3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

	低い(少ない) 確率	平年並の確率	高い(多い) 確率
〇 気温	50%	30%	20%
〇 降水量	40%	40%	20%
〇 日照時間	20%	40%	40%

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jpnp.ne.jp/techigi/index.html>)までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012